

題材名「地震がおきたら」

目 標

- ・地震による災害の危険、安全な避難の方法について理解し、安全に行動できるようにする。

コンピュータを活用する利点

地震による被害の様子を映像で映し出すことにより、地震のもたらす被害について理解しやすくなることができる。また、地震が起きる前と、後の写真を提示することにより、地震が起きたときの安全な行動、避難の仕方を考えるのに有効だと考えた。

授業の流れ

阪神淡路大震災の被害の様子を知る。

作文の朗読を聞き、感想を交流する。

地震が起こったときの安全な避難の仕方について話し合う。

- ・教室で
- ・ろう下で
- ・児童玄関で
- ・体育館で
- ・運動場で
- ・校舎のまわりで
- ・通学路で
- ・家で

本時の感想を書く。

ICT 活用場面

子どもたちは、震災当時、生まれていなかったため、震災を直接経験していない。大地震が起こった際、どのような被害が考えられるのかを、具体的に捉えさせるのに、写真や、当時の記録ビデオを見せることが有効だと考えた。

今回は、震災・学校支援チーム（EARTH）によって作成された素材を授業で使用した。この素材は、震災の様子が写真や、ビデオ映像により紹介されており、大変分かりやすくなっている。また、ビデオ映像では、撮影者の声も記録されていて、緊迫感がある。

これらを見た後、防災教育副読本「明日に生きる」に掲載されている「12時にサイレンが町中にひびいた」の朗読を聞かせた。卒業を前にした子どもが、震災で亡くなった友だちのことを想って書いた詩である。子どもたちは、今の自分たちの状況と重ねながら聞いていた。「もし、自分の友だちが地震で亡くなってしまったら、悲しい」という感想が聞かれた。

次に、教室、ろう下、児童玄関などについて、大地震が起こる前と大地震が起こった後（震災時）の写真を、パワーポイントを使って提示した。そして、どのような場所が危険で、どう行動すれば、安全なのかについて、話し合いを進めた。



成果と課題

- ・震災の被害について知るのに、写真資料、ビデオ映像が効果的だった。
- ・映像を見せながら説明する時間が多かった。提示した資料をもとに、子どもが考え、話し合う場面をさらに増やすようにしたい。

ICT 活用環境等

| | |
|---------|-----------------------------------|
| 使用周辺機器 | コンピュータ プロジェクター |
| 使用ソフト名 | パワーポイント |
| 使用コンテンツ | 「災害を語り継ぐ素材集」 震災・学校支援チーム（EARTH） |
| 使用教室 | 普通教室 |